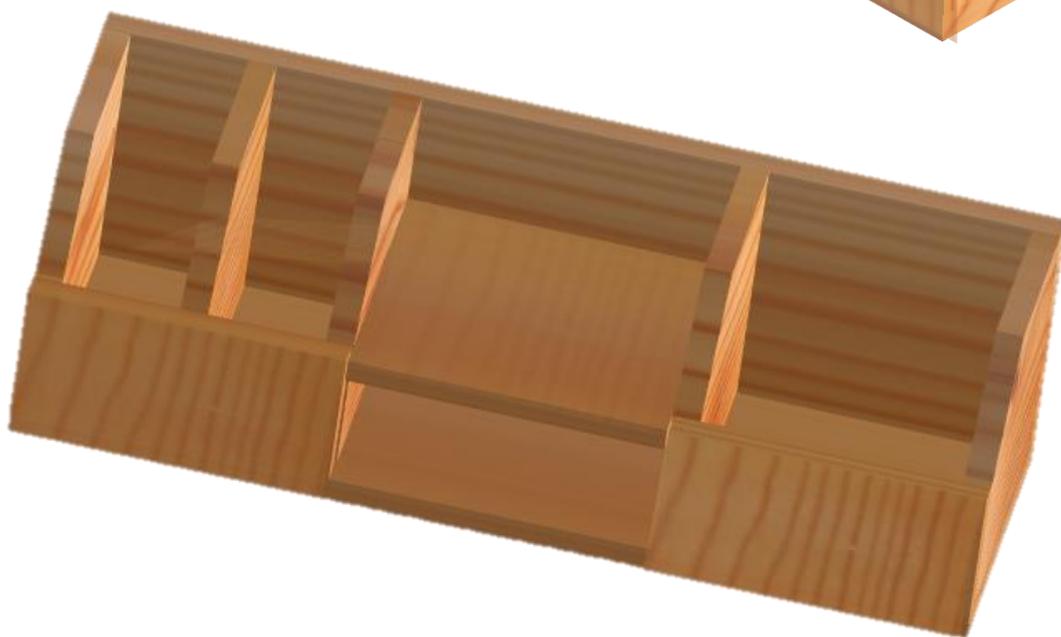
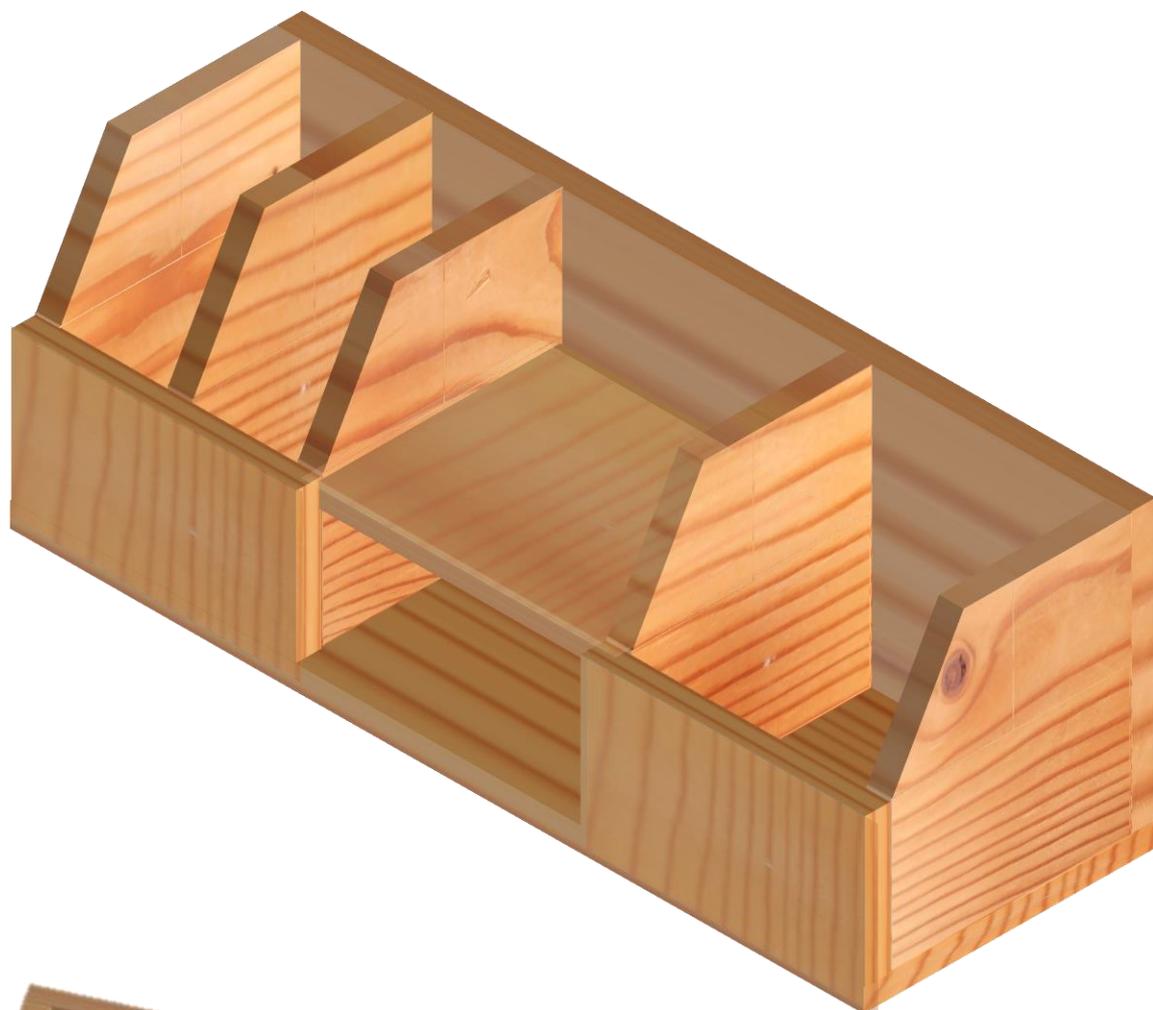
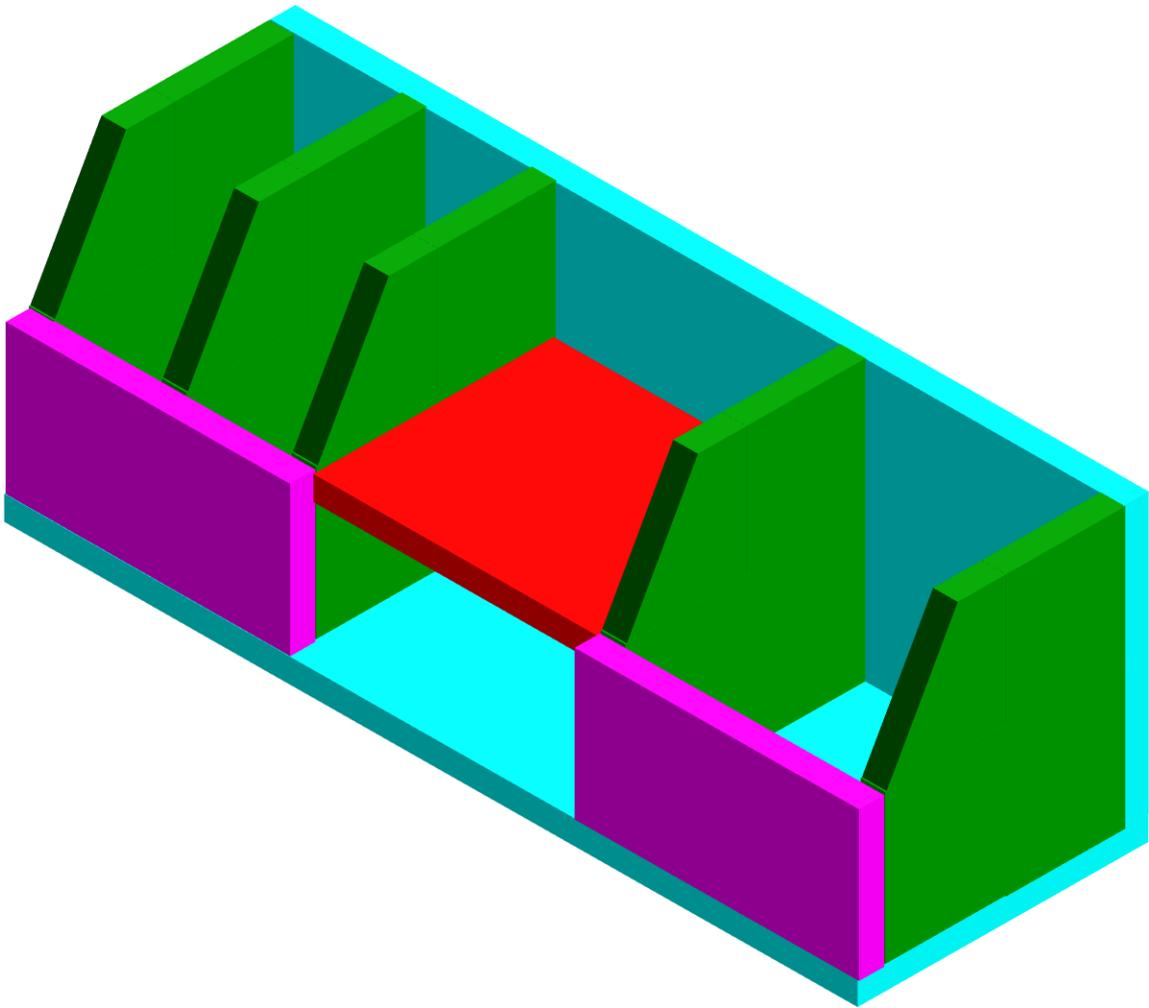


マルチ収納BOXをつくろう





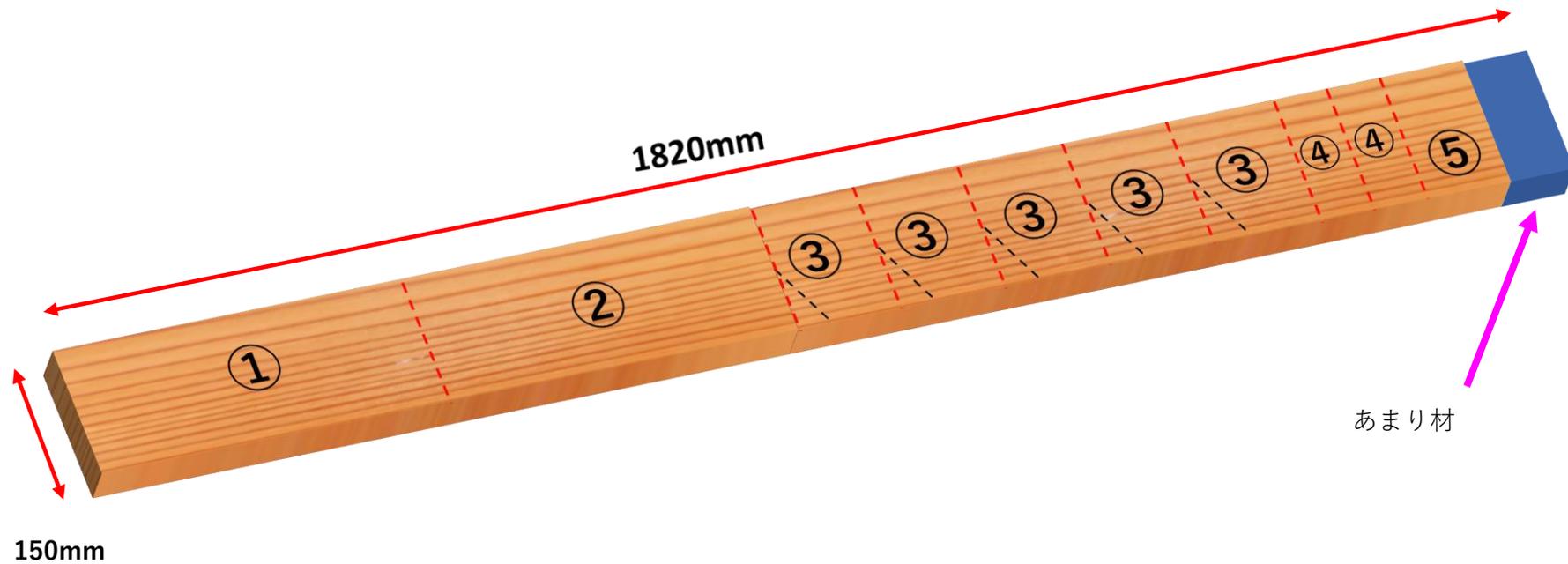
準備する木材

厚さ13mm、長さ1820mm、幅150mm

* 厚さ13mmが用意できない場合2ページ先「各材料の寸法」へ

* 必要長さは1804mmです。ノコ切りの厚さ1mmの場合1mm×9か所切断で1813mm必要になります

* ノコ切りの厚さは、確認してください



準備する道具



ノコギリ



木工ボンド



釘 (クギ) : 39本以上

部材厚さの+6mm以上の長さを用意
(厚13mmの場合は、19mm以上)



トンカチ



錐 (キリ)



定規

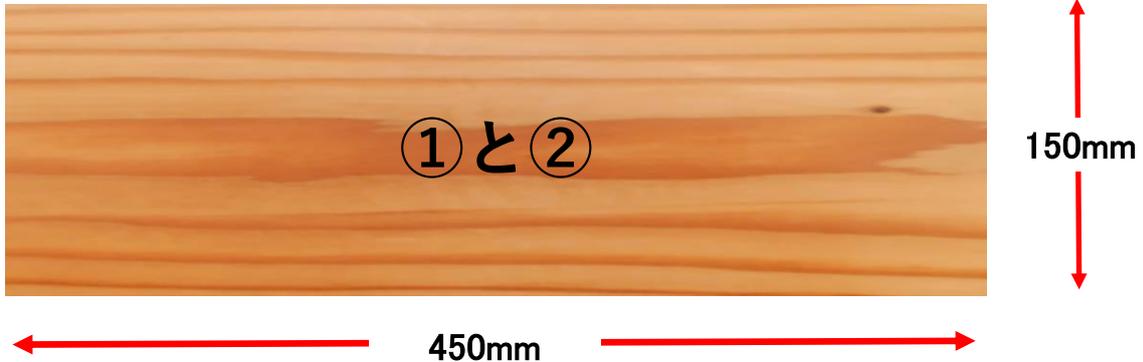
他

ウエス (はみ出したボンドを拭く布など)

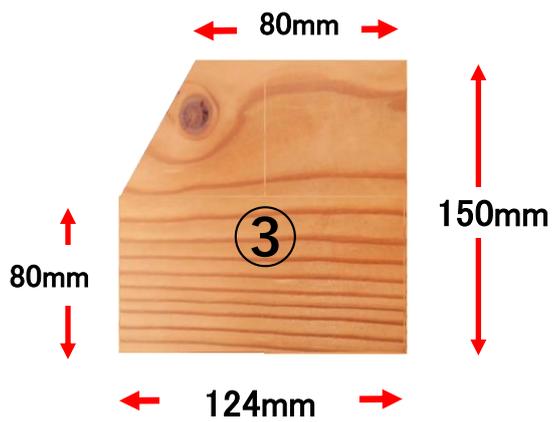
紙やすり (木材の角を丸める)

各材料の寸法

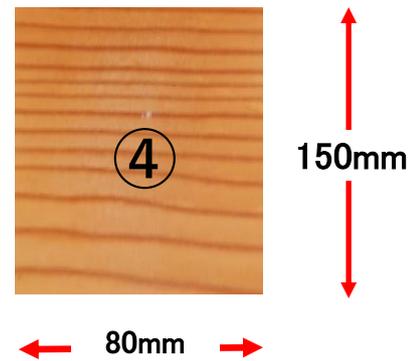
①背板/②底板 各1枚



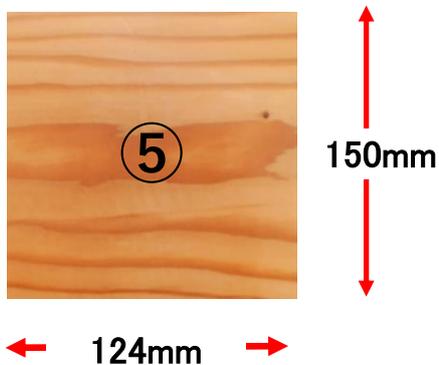
③仕切り板 5枚



④前面フタ板 2枚



⑤棚板 (たないた) 1枚

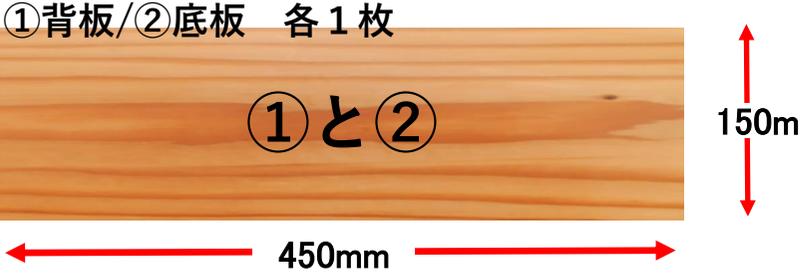


厚さ13mm材を用意できない場合

③と⑤の124mmは、厚さに関係して
計算式は、 $150\text{mm} - (\text{厚さ} + \text{厚さ})$ となります
厚さ13mmなら、 $150 - (13 + 13)$ で124mm
厚さ15mmなら、 $150 - (15 + 15)$ で120mm
となるので、変更して組立ではある程度可能です

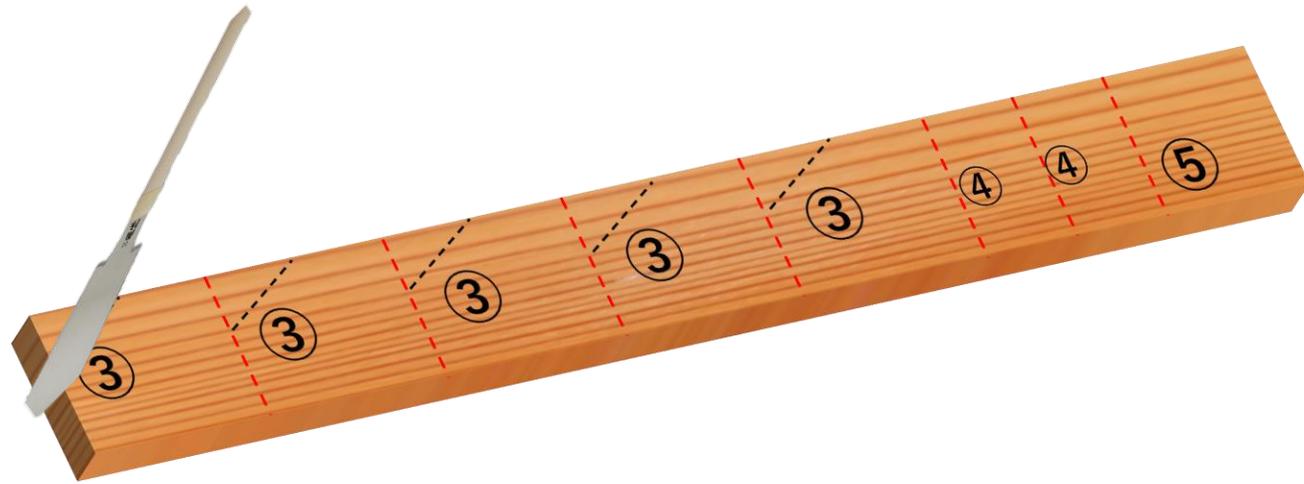
部材の切り出し①と②

切る前に必ず長さを確認しましょう
真っすぐに切りましょう

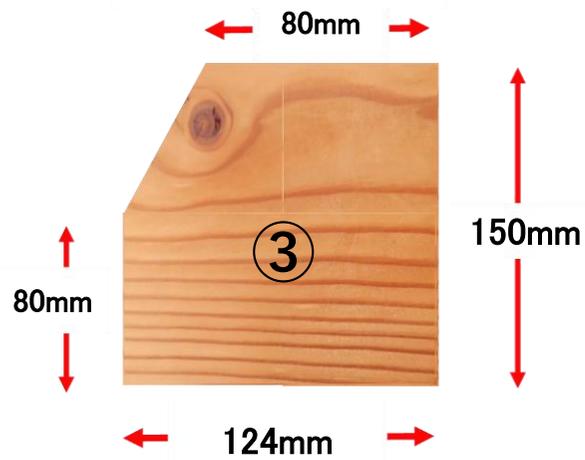


部材の切り出し③～⑤

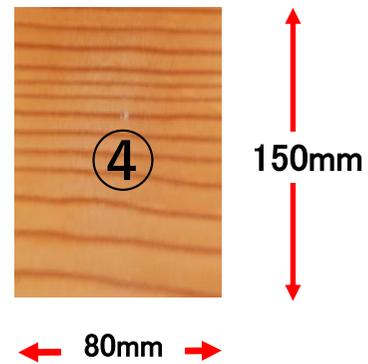
* 斜線を切るときは、木材が長いままのほうが扱いやすいです



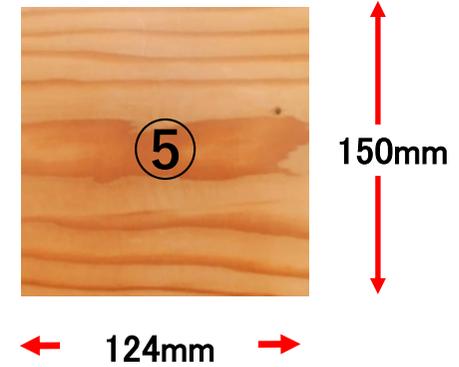
③仕切り板 5枚



④前面フタ板 2枚

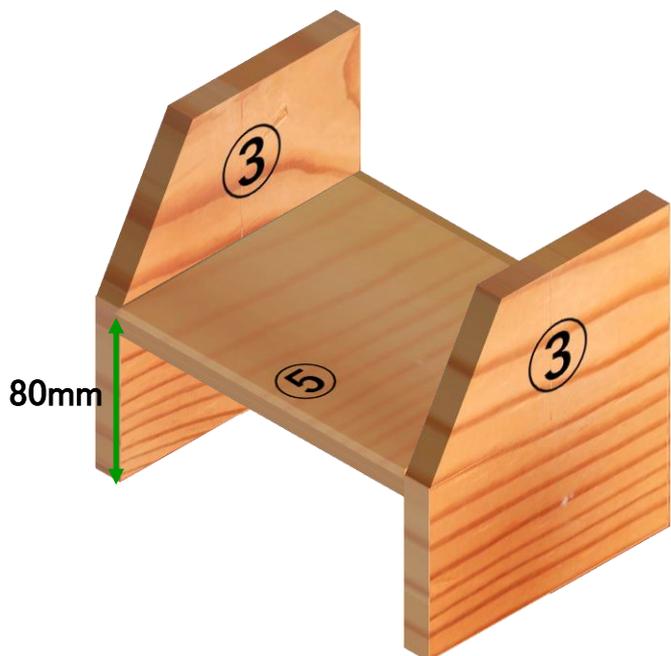


⑤棚板 (たないた) 1枚

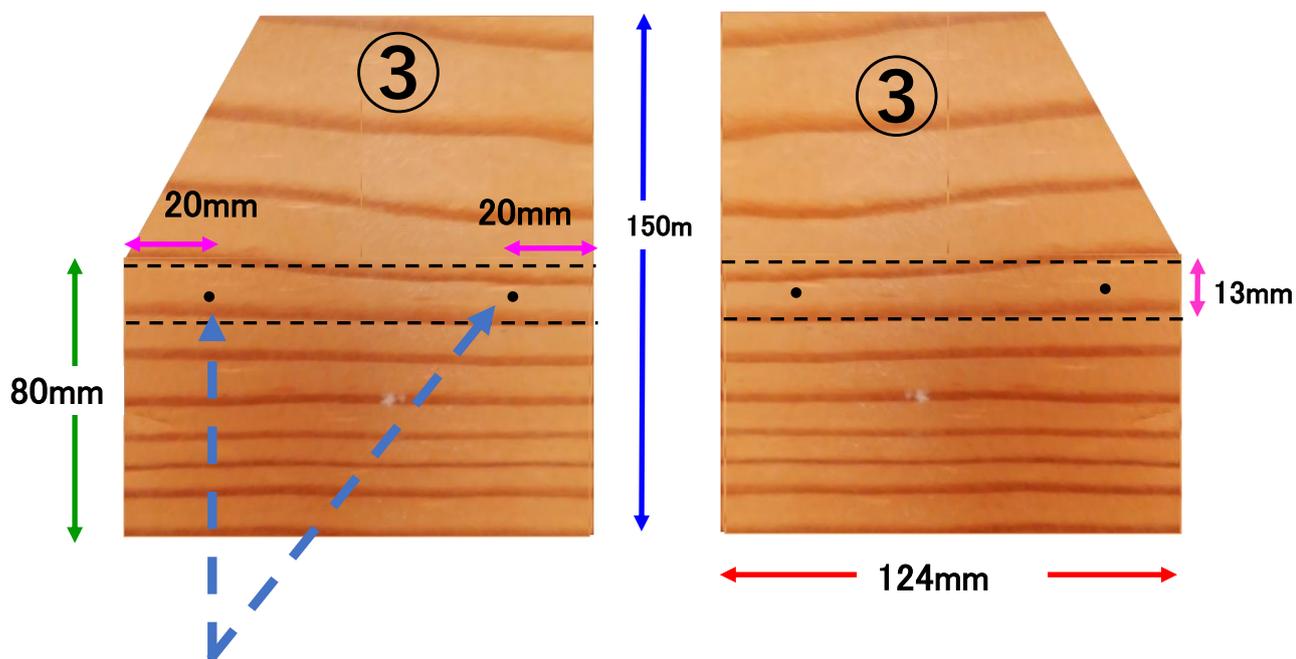


組立1（棚（たな）部材）

③2枚と⑤を用意しましょう



⑤の高さは、底側から上面が80mmのところ
に付きます（高さは、自由なので低い位置でも高い
位置でも構いません）



クギを打つ場所をエンピツでマークしましょう

各2カ所、合計4か所になります

マーク場所は、端（ハジ）から20mm位の所

*** 端に近いと、材に割れが入る場合があります**



反対面に⑤の位置を線や印（シルシ）を付けると組立が分かりやすくなります
（後で消せるエンピツなどでやりましょう）



錐（キリ）を使い、さき穴（2枚4か所）を開けましょう
*クギが倒れないくらい



トンカチでクギを真っすぐに打ち込んでみましょう

2枚4か所

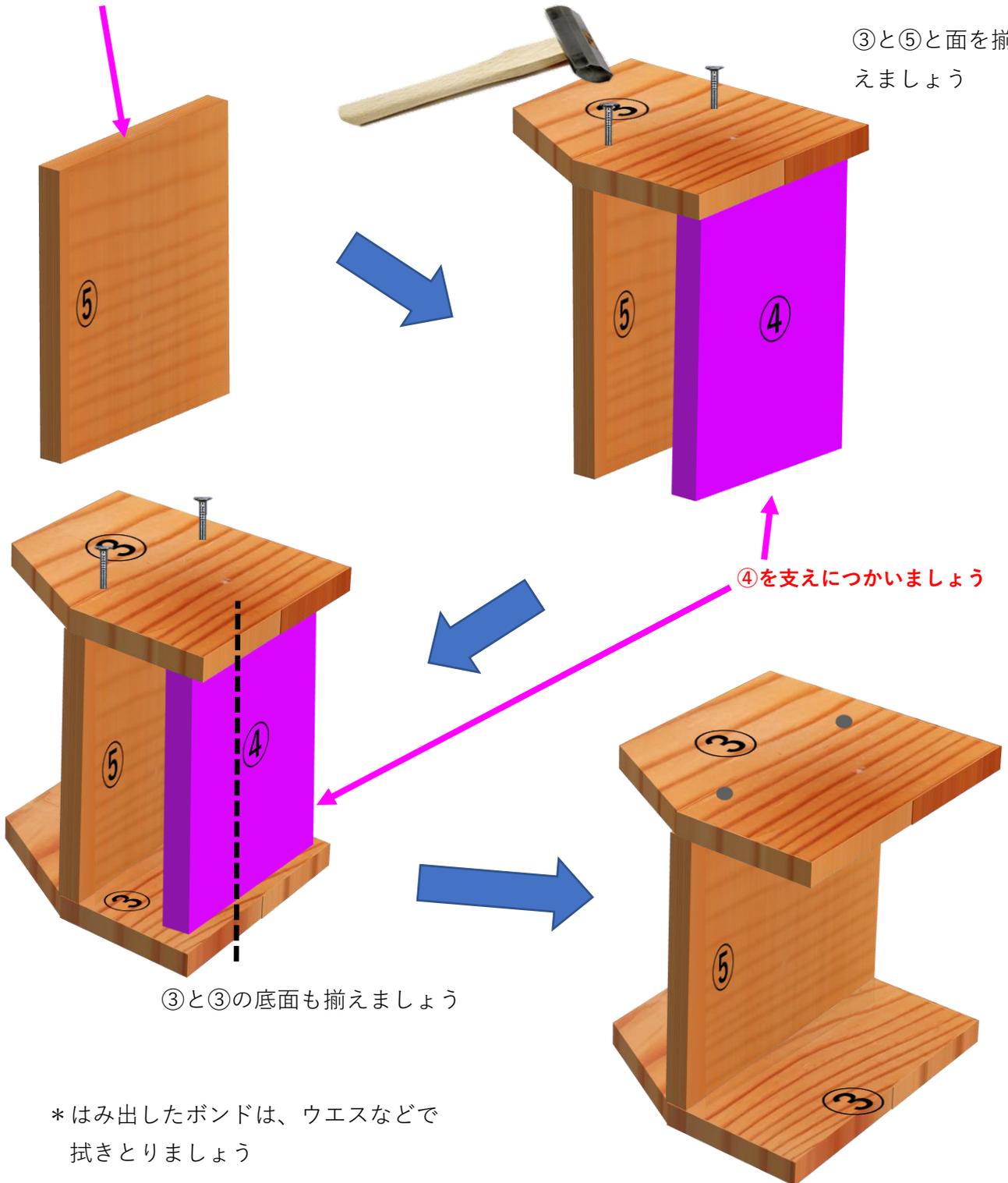
(先をほんの少しだけ出すくらい)



⑤の接触面に木工ボンドを付け

③をのせて、クギを押し込みましょう

③と⑤と面を揃えましょう

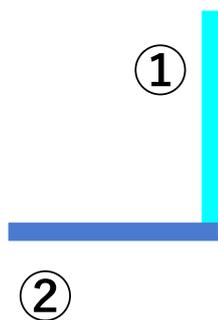


③と③の底面も揃えましょう

*はみ出したボンドは、ウエスなどで拭きとりましょう

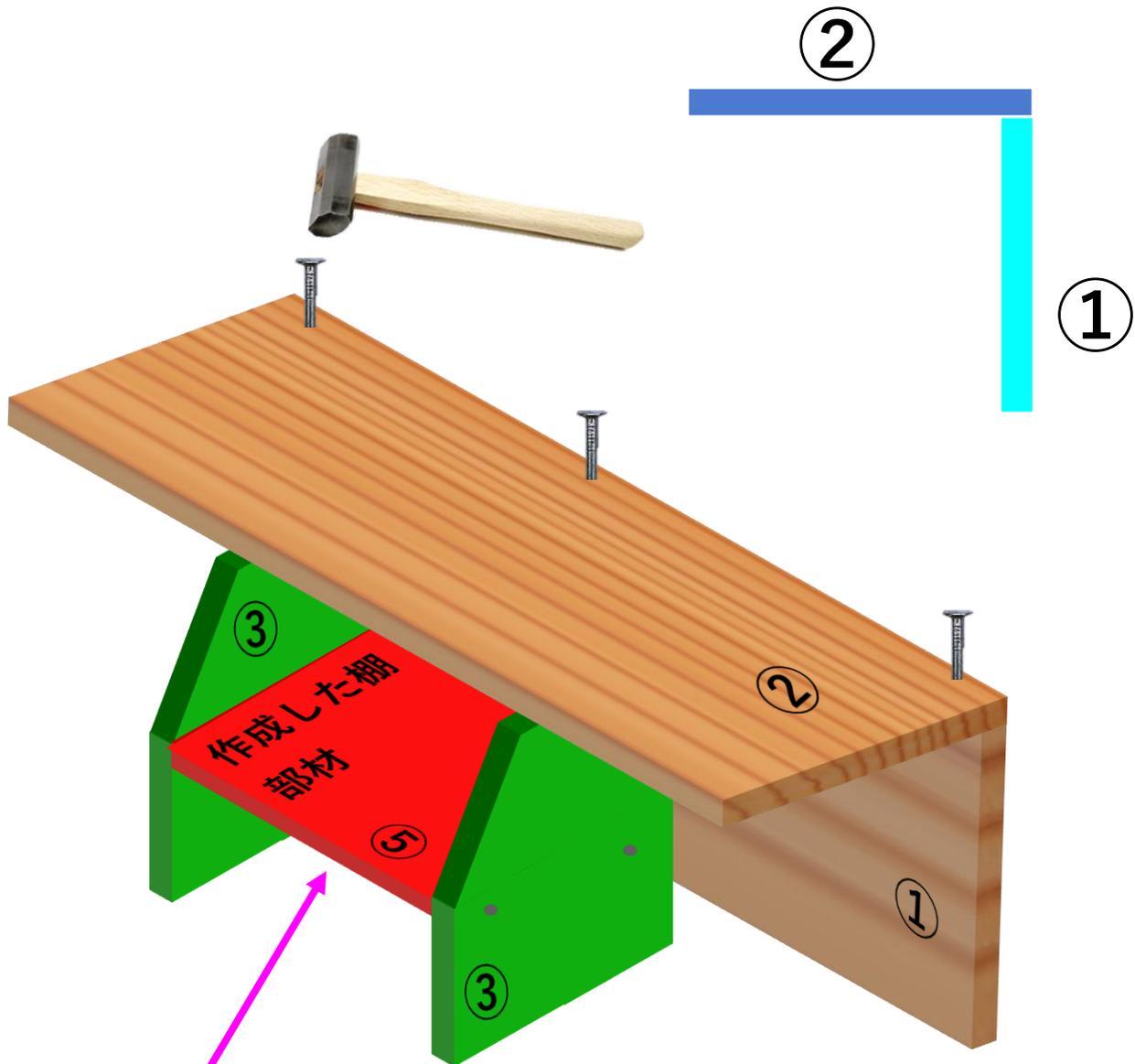
組立2~完成まで

図のように①と②を組み立てます
(①と②は同じサイズです)



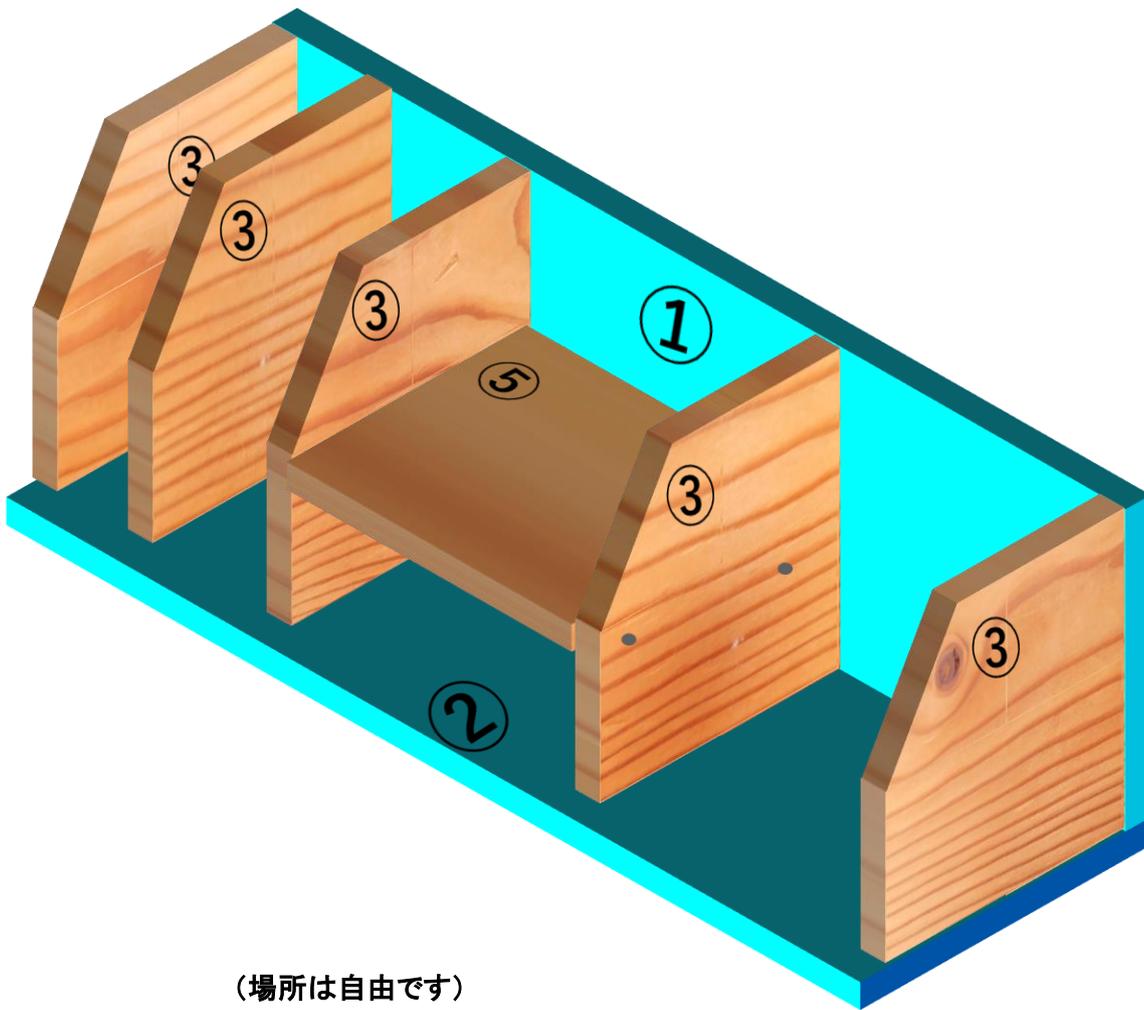
②を底（下）とします

棚（たな）板部で作成したように
マーキング後に、錐（キリ）での穴あけを行い、接触する部分に木工ボンドを付け
トンカチでクギを真っすぐに打ち込みます
底の面なので出来るだけ平らになるようにしましょう



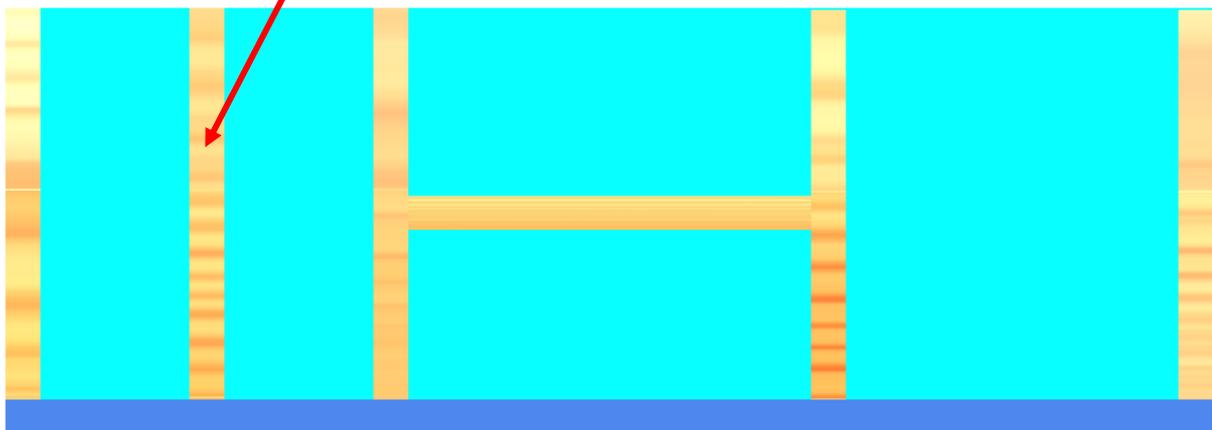
作成した棚（たな）部材を支えに使いましょう
(ボンドの乾きに自信がなければ③や④を支えに使用しましょう)

③仕切り板および棚（たな）板部を取り付ける



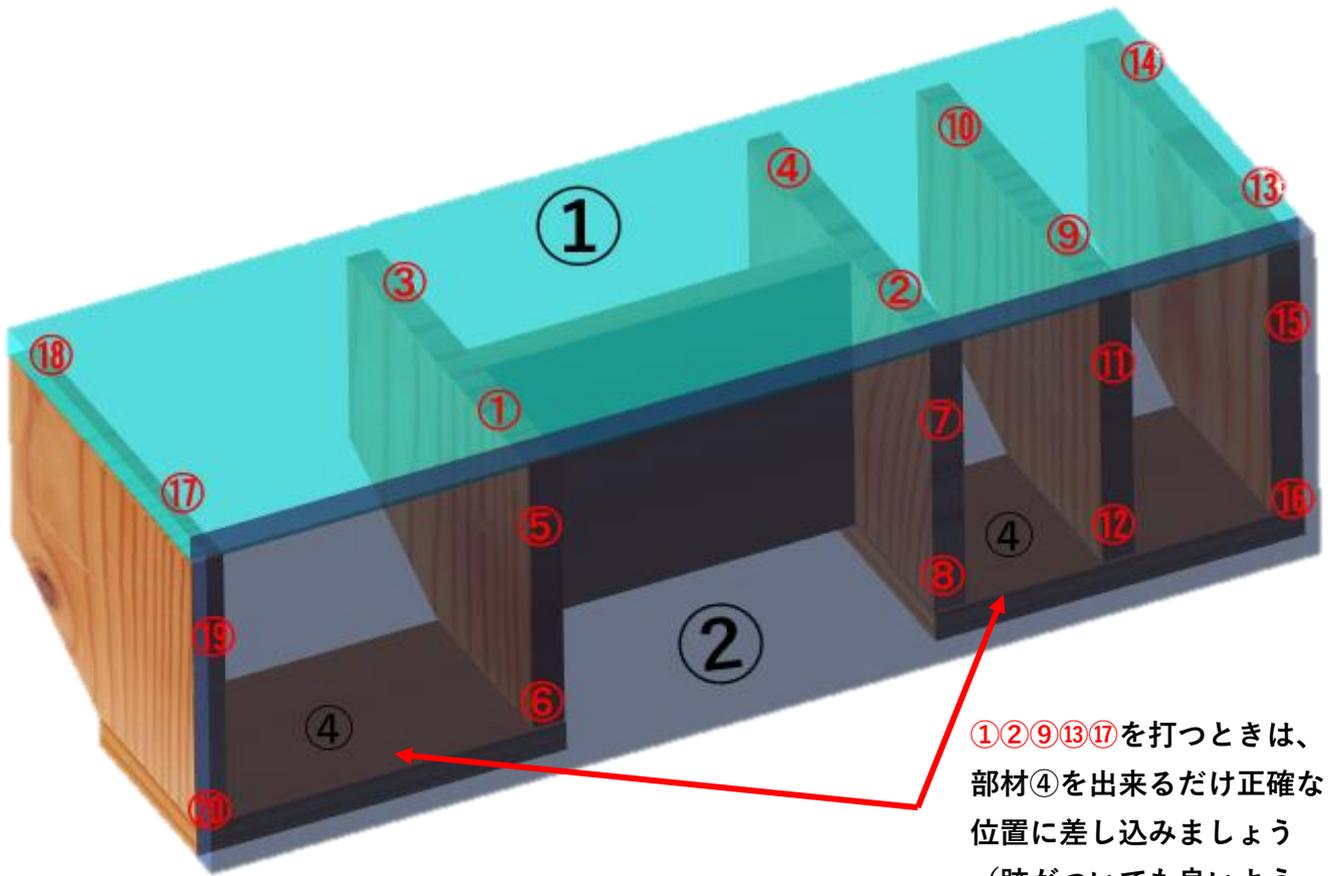
(場所は自由です)

← 75mm →

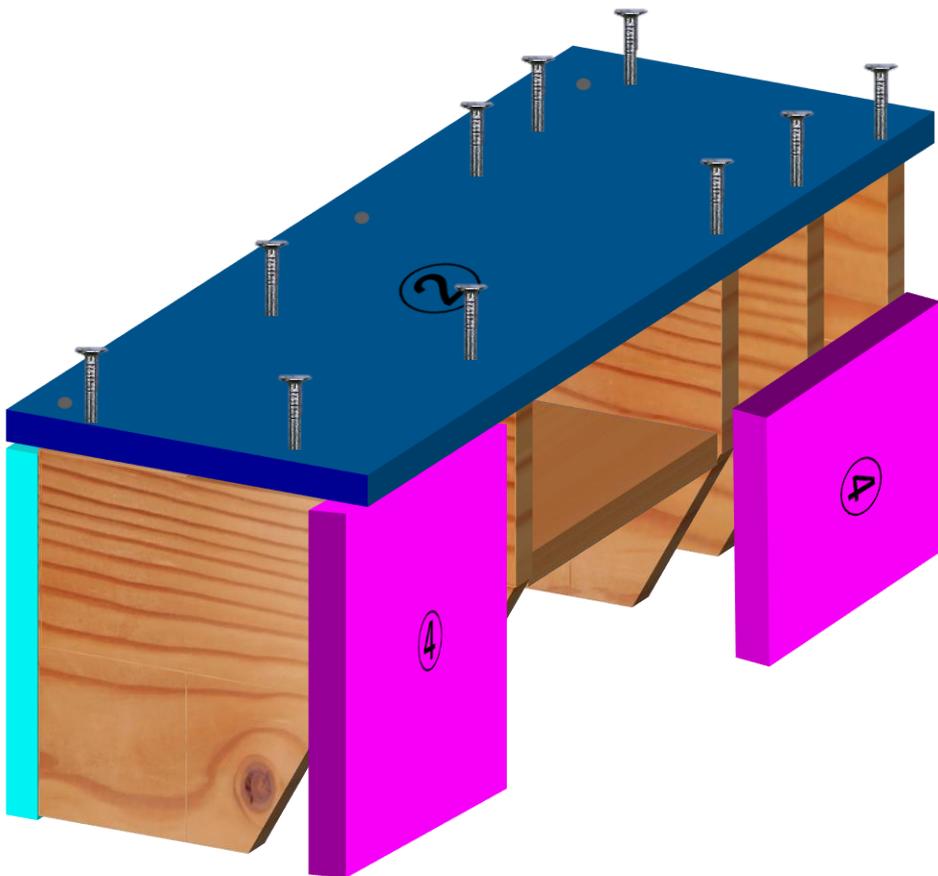


← 150mm →

← 150mm →

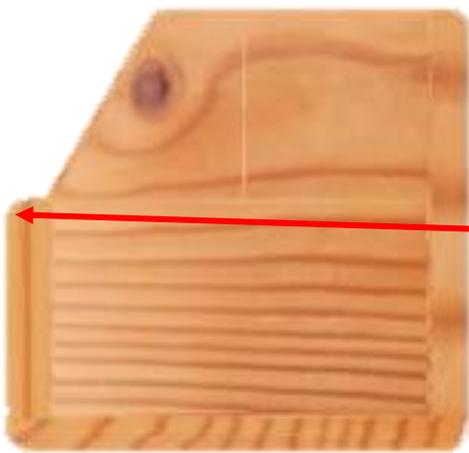


①②⑨⑬⑰を打つときは、
部材④を出来るだけ正確な
位置に差し込みましょう
(跡がついても良いよう



②が上の時は
④(縦)を支えに
④(横)は、位置確認
に利用できます

④の蓋（ふた）板を付けて完成です



「紙やすり」で角を丸めましょう